

カンテンコケムシは関東以南に分布しており、関西・四国・九州からも報告されているが、富山県を含めた北陸地方では研究者がいないため、報告は全くなかった。

なお、田尻池は例年10月から3月にかけてオオハクチョウやカモ類が飛来する農業用溜め池であり、近年は春と秋の年2回水が抜かれている。

それでコケムシの休芽がオオハクチョウ等の鳥類の体に付着して分布を広げた可能性も考えられる。休芽が水鳥に食べられ、他の地で排出されて運ばれる場合もある。水抜きのため、将来とも安定して生息するか否かは疑わしい。

なお、田尻池で確認できた魚類はフナ類、シマドジョウ、ヨシノボリ類、ウキゴリで、ほかにウシガエル幼生が確認されている。これらの標本は富山市科学文化センターに保管されている(TOYA Iv-506)。また、同年10月10日の調査でもこれらのものが確認されている。

#### 文献

Mukai, H. 1974. Germination of the statoblasts of a freshwater bryozoan, *Pectinatella gelatinosa* J. Ept. Zool., 187:27-40.

織田秀実 1987. 桂離宮のカンテンコケムシ。

遺伝, 41 (1): 65-72.

織田秀実, 1990. 淡水のコケムシ。

日本の生物 4(8):50-57.

織田秀実 1995. 桂離宮にすみついたアサジレラ。

青淵, (557): 24-25.

織田秀実 1998. 丘浅次郎とアサジレラ。生物科学 50 (4): 235-238.

Oda, S. & H. Mukai 1989. Systematic position and biology of *Pectinatella Gelatinosa* Oka (Bryozoa, Phylacotolae-mata) with the description of a new genus.

Zool. Sci. (Tokyo), 6:401-408.

Oka, A. 1891. Observations on freshwater Polyzoa (*Pectinatella gelatinosa* nov. sp.) *Coll. Sci. Imp. Univ. Tokyo*, 4:89-150.

Terakado, K. & H. Mukai, 1978. Ultrastructural studies on the formation of yolk granules in the statoblast of a fresh-water bryozoon *Pectinatella gelatinosa*. *J. Morphol.*, 156:317-338.

## 砺波平野で確認された淡水海綿

布村昇

富山市科学文化センター 〒939-8084 富山市西中野町1-8-31

益田芳樹

川崎医科大学生物学教室 〒701-0192 倉敷市松島577

### Freshwater Sponges in the Creek of Tonami Plain, Toyama, Central Japan

Noboru Nunomura

Toyama Science Museum, Nishinakano-machi 1-8-31, Toyama-shi, Toyama 939-8084, JAPAN  
and

Yoshiki Masuda

Kawasaki Medical School, 577 Matsushima, Kurasaki, Okayama 701-0192, JAPAN

富山県の淡水海綿の採集記録は佐々木信男の1937年10月29日、放生津潟(現在の新湊市に存在した潟湖で、今は富山新港になっている)からのミューラーカイメン *Ephydatia muelleri* の1記録のみで(私信)、本県からはほとんど未調査の状態である。布村は益田から富山県内の淡水海綿の情報を求められ、富山市周辺の河川、用水、小川、水田、溜め池などを調べたが発見されず、また1995-1997年に富山市科学文化センターの行った富山市内いたち川の調査の際にも発見できなかった。

2002年に富山県砺波農地林務事務所と富山県水生物研究会がおこなった庄川合口流域地区生態系調査において、布村が砺波平野の4地点から淡水海綿を採集し、益田に送ったところ、2地点の2サンプルについて種名決定ができた。また、芽球の形成期でなかったため、他のサンプルは種名の決定ができなかった。これらの標本は富山市科学文化センターに保管されているとともに、一部は益田が研究用に保管している。

海綿動物 Porifera

タンスイカイメン科 Spongillidae

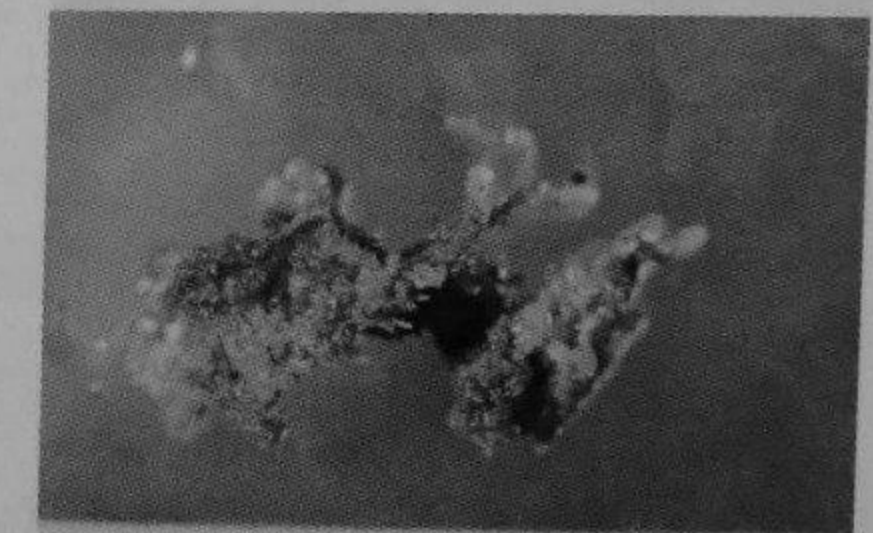
ヨワカイメン *Eunapius fragilis* (Leidy, 1851)

第1生息地

福岡町下老子(Shimooigo)の荒俣川(Aramatagawa)。コンクリートの側面。庄川扇状地の扇端からのおよそ16kmの距離。

【確認日】2002年6月24日

【採取者】布村昇



ヨワカイメン(荒俣川)

第2 生息地

【生息確認場所】 砺波市鷹栖 (Takanosu) と小矢部市水島との境界付近。出町外六ヶ村用水のコンクリートの側壁面。庄川扇状地の扇端からのおよそ 10km の距離。

【確認日】 2002 年 7 月 7 日

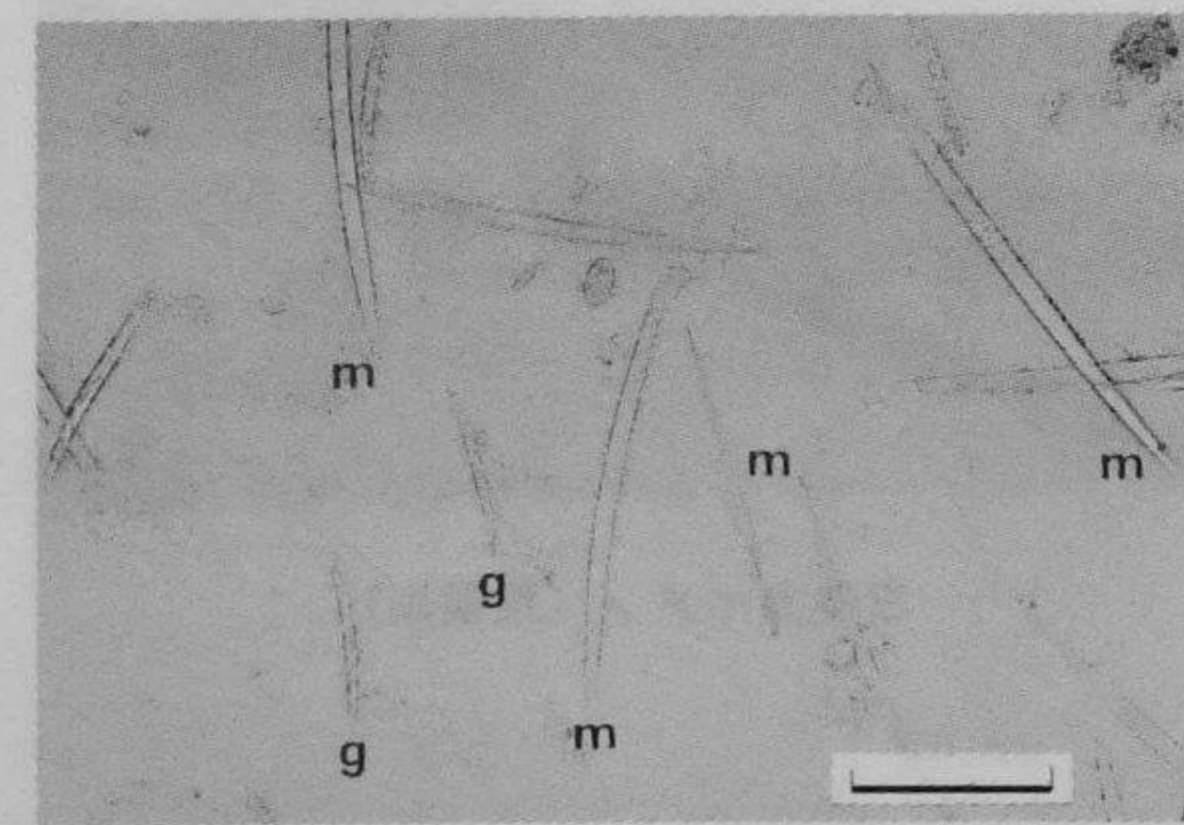
【採取者】 布村昇



出町六ヶ村用水での生息場所風景



鷹栖での生息状況



ヨワカイメンの骨片顕微鏡写真、骨格骨片 (m) と芽球骨片 (g)  
出町外六ヶ村用水産。スケールは 100  $\mu$  m.

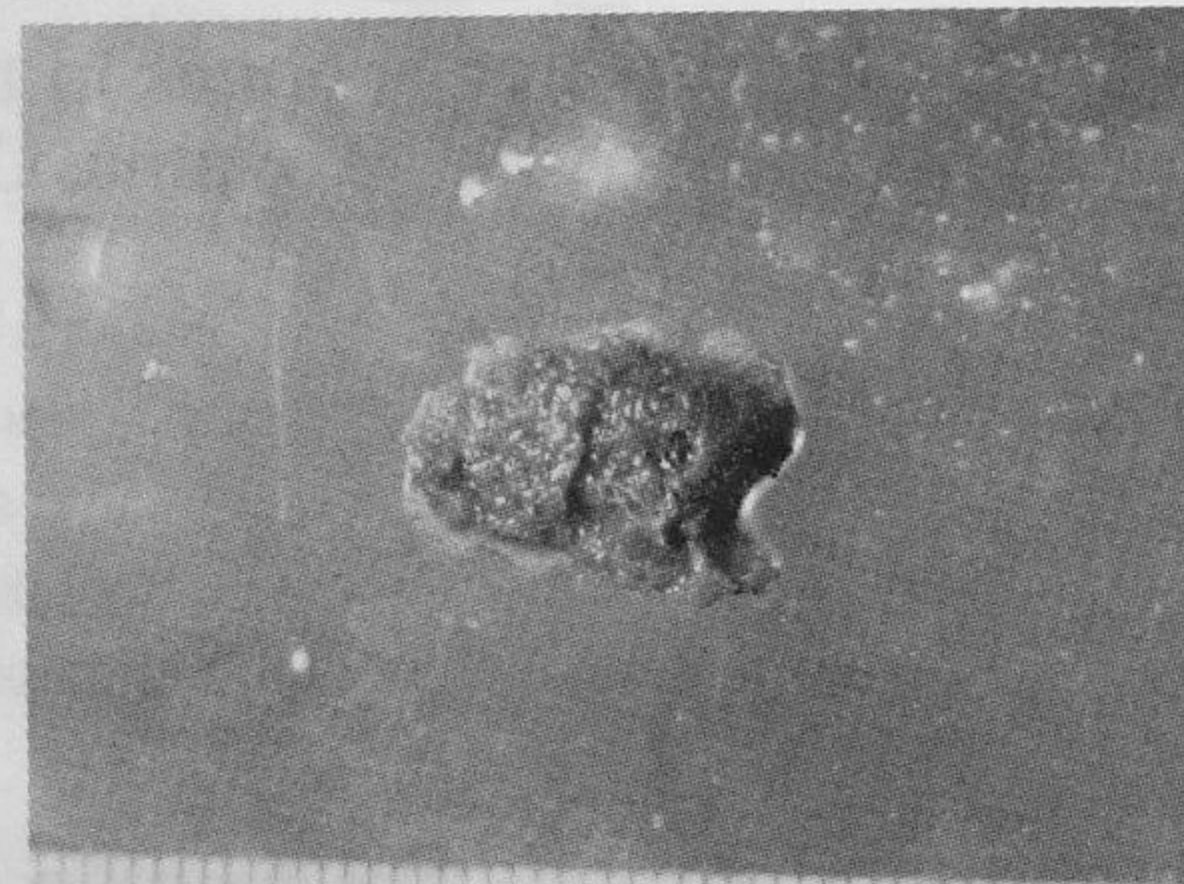
タンスイカイメン科 Spongillidae の 1 種

【特徴】 骨格骨片は平滑

【生息確認場所】 富山県砺波市狐島の上黒石川 (Kami-kuroishigawa)。庄川扇状地の扇端からのおよそ 12km の距離。

【確認日】 2002 年 6 月 3 日

【採取者】 布村昇



タンスイカイメン科の 1 種 (上黒石川)

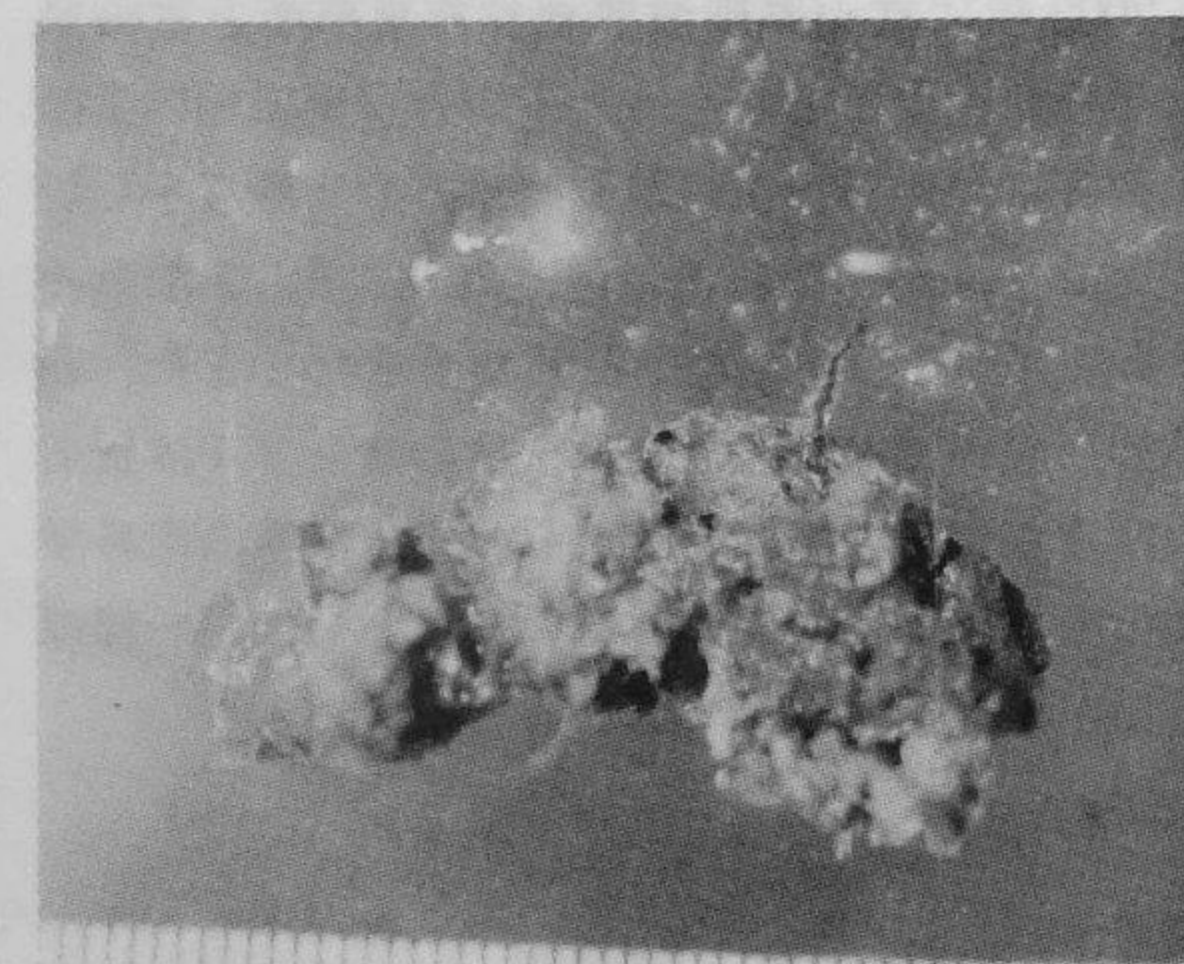
タンスイカイメン科 Spongillidae の 1 種

【特徴】 骨格骨片が平滑。異常形態骨片が多い。

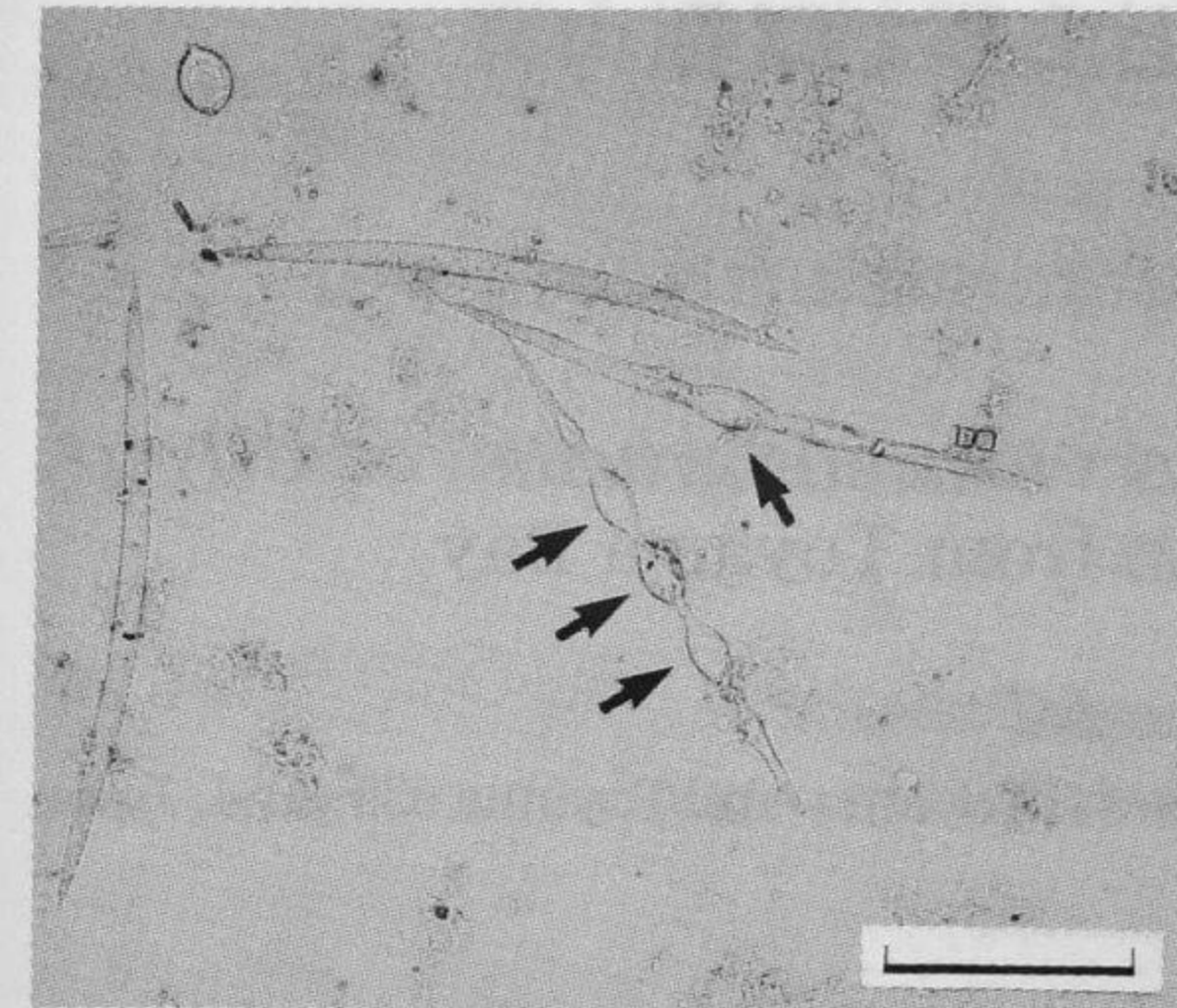
【生息確認場所】 富山県小矢部市水島と砺波市鷹栖境界の狐島 (Kitsunejima) 用水のコンクリート側壁面。庄川扇状地の扇端からのおよそ 10km の距離。

【確認日】 2002 年 6 月 16 日

【採取者】 布村昇



タンスイカイメン科の 1 種 (狐島用水)



膨れ出し (矢印) を持つ骨格骨片、狐島用水産。  
スケールは 100  $\mu$  m.

【コメント】 骨格骨片しかなかったものの形態の異常な骨格骨片をもち興味深い。この海綿が芽球を形成した場合、異常な芽球骨片を作るのではないかと想像される。調査は春から夏にかけて行われ、今後、夏から秋にかけて芽球は形成期での調査が必要である。